

活用ナビ

①【ねらい】資料から戦国の世の中の様子を知り、問いを作る。

- ② ● 題を読みましょう。
 - 何年の戦いでしょうか。
 - 左側は誰の軍でしょうか。右側は誰の軍でしょうか。
 ※教科書を読みながら、確認していく。

- ③ ● 左側、右側の戦いの様子で気づいたことを書きましょう。どちらから書いても構いません。
- ※気づいたことに加えて予想や解釈（～なのではないだろうか）も書いてよいことを伝える。

- ③ ● 発表しましょう。
- ※板書も左側、右側に分けて書いていく。

- ④ ● 戦い方でどのようなちがいがあがるでしょうか。
- ※連合軍は新しい武器である鉄砲を使い、武田軍はそれまでと同じ騎馬隊で戦ったことをおさえる。

- ⑤ ● この絵は何を表したかったのでしょうか。話し合しましょう。
- ※鉄砲が初めて使われた戦いであることを中心に話し合いたい。

- ⑥ ● これから学習したいことをノートにかきましょう。
- ※戦国の世の様子について考える問いを書かせたい。

6年-10

2-5 全国統一への動き
戦国の世の中

P124~P125

名前

6年 組 番

①【ねらい】資料から戦国の世の中の様子を知り、問いを作る。

②【基本】教科書の資料を見よう。

- ・題を読もう。
- ・何年の戦いだろうか。
- ・左側は誰の軍だろうか。
- ・右側は誰の軍だろうか。

織田信長、徳川家康（の連合軍）（豊臣秀吉）

武田勝頼

③【ポイント】資料を読み取ろう。

- ・左側で気づいたことを書こう。
- ・右側で気づいたことを書こう。

・たくさんの鉄砲を使っている。

・木のさくを作っている。相手を防ぐためではないか。

・さくは川のそばに作られている。

・馬に乗っている人は多くはない。きっと信長や家康が指揮していると思う。

・旗が多い。何のためだろうか。

・鉄砲ではなく、馬とやりで攻め込んでいる。

・攻めているが、倒されている馬が多い。鉄砲に撃たれているのかもしれない。

・後ろの城の近くで戦っている人たちがいる。誰と戦っているのか。

・多くの人々が戦いをしていた。

④戦い方でどのようなちがいがあがるだろうか。

・連合軍は鉄砲を使って、戦いを有利に進めている。それに対して、武田軍は今までと同じ方法で戦っている。

- ・どちらが戦いに勝ったか、予想しよう。

⑤この絵は何を表したかったのだろうか。話し合おう。

⑥これから学習したいことをノートに書こう。

資料の読解

長篠の戦いは、織田・徳川の連合軍が武田勝頼の軍を破った戦いである。その戦いの様子を描いたのが、この「長篠合戦図屏風」であり、当時最強といわれた騎馬隊を有する武田軍を、鉄砲を初めて使った連合軍が破る様子が描かれている。犬山藩主の成瀬氏に伝えられているものが原本と考えられ、17世紀の作品とされている。

この絵には、左側の連合軍の鉄砲を使った攻撃に、右側の武田軍の騎馬隊が次々と倒されている様子が描かれている。さらに細かく見ていくと、連合軍は川のそばに馬防柵を設置している。これは馬の攻撃を防ぐ役割を果たすだけでなく、鉄砲隊が次々に攻撃するためにも利用された。また、武田軍の後方の城の近くでも戦いが行われているが、これは連合軍が別動隊を組み、城の後方より奇襲をかけたものである。これにより、武田軍の退路は断たれた。

このように、屏風の中に長篠の戦いの象徴的な場面が描かれているのである。

読解の方法

- (1) 歴史の絵画資料では、何の出来事の絵画か、また描かれている人々は誰なのかといったことを最初におさえる必要がある。題、戦いの名称と起こった年、左右それぞれの軍を率いる武将を確認する。
- (2) 続いて、絵から気づいたことを書かせる。この時には、じっくりと細かいところまで絵を見させるために、活動時間を保障する。その時に、自分なりの予想や解釈を「～なのではないか」といった形で書くことで気づきが深まることを伝えたい。発表の際には、どの部分のことを指しているのか不明な場合があるので、拡大投影した図を指し示しながら発言させ、情報の共有化を図る。
- (3) 発表が一通り終わったあとで、連合軍と武田軍の戦い方の違いをまとめる。そして、この絵の制作者が何を描きたかったのか考えさせる。そのことにより、歴史的な絵画資料には制作者の意図が反映されていることを子どもたちに理解させたい。